



0743-82-1411

tsuge.jadecom.or.jp

奈良県奈良市都祁白石町1084

当院は、公設民営、総合診療、在宅医療、グループ診療、DX化、診療看護師、教育診療所、プライマリケア研究などをキーワードに今の時代にあった新しいカタチの地域医療を目指しています。

奈良市の東部、大和高原に位置する奈良市立都祁診療所。ここで所長を務めるのが、総合診療医の西村正大先生です。西村先生は大阪大学医学部卒業後、地域医療や家庭医療の現場で経験を重ね、米国オレゴン健康科学大学でも教育・研究を学んできました。現在は都祁診療所で外来診療や訪問診療に取り組むだけでなく、若手医師の教育や近隣診療所との連携を通じ、大和高原の地域医療を将来にわたって支える仕組みづくりを進めています。地域の子どもから高齢者まで、家族三世代とつながりながら診療を続ける西村正大所長に、医師を志した原点、都祁で実践する在宅医療、そしてこれからの地域医療について伺いました(2026年8月取材)。

世界の旅から地域医療へ。都祁診療所・西村正大所長が「町医者」を志すまで

まずは、西村先生の生い立ちや医師を目指したきっかけについて教えてください。

生まれたのは北海道ですが、その後は愛媛県松山市で育ち、小・中・高と地元の学校に通いました。

医師を目指した動機は、実はそれほど特別なものではないんです。何かの領域で成功したいといった野心も能力も特になく、「普通の市井の中で、目の前の人の役に立つ仕事がしたい」と漠然と考えていました。どんな職業でも人の役には立ちますが、医師、特に臨床医は、患者さんに直接語りかけたり触れたりして、自分の判断や腕でつらい症状を和らげることができます。

直接的に人を助けられる、とてもわかりやすい職業だと魅力を感じ、自分の学力から手が届きそうだったこともあって医学部を選びました。



数ある大学の中で大阪大学を選ばれた理由や、学生時代のエピソードをお聞かせください。

四国で育った私にとって、都会は憧れの場所でした。その中で、私が思い浮かべた場所が関西だったということもあり、大阪大学へ進学を決めました。

大学生活自体は平凡でしたが、一つ大きな経験として、大学2年が終わった後に1年間休学して、世界を旅したことがあります。ヨーロッパと東南アジアをそれぞれ半年ずつかけて周遊しました。



中でもチベットでは、トラックをヒッチハイクして荷台で20人ほどの現地の人たちと一緒に寝泊まりして数日かけて一緒に移動するという体験もしました。私が当たり前だと思っている常識が通じない状況を目の当たりにし、世界は驚くほど多様で、様々な背景の人々が生きているのだと肌で感じ、大きく視野が広がりました。

帰国後はどのような医師像を思い描くようになったのでしょうか。

帰国後は大学に復帰し、学業とともに部活やカフェの接客業のアルバイトなどを経験しました。将来の医師像については、もともと「社会で一般的な仕事をしたい」という思いが原点にあったので、高度に専門的なスペシャリストというよりは、地域に根ざした「町医者」をイメージしていました。特定の臓器だけを診るのではなく、ジェネラルな総合診療を目指すようになったのも、そういった思いからだと思います。

大学卒業後は、どのようなキャリアを積まれたのですか。心に残っている出会いなどがありますか

初期研修は大阪大学で行い、その後は地域医療振興協会という自治医科大学の卒業生の方々が中心となって運営されている組織の家庭医療専門研修プログラムに進んで、市立奈良病院や田舎の医療機関を回りました。

中でも大きかったのは、青森県の下北半島にある東通村診療所での経験です。

当時の人口が約8,000人の村だったのですが、私の指導医だった先生が、地域とともに診療所を作り、村のリーダーとして地域医療を実践されていました。

その姿にとっても感銘を受け、今でも私のロールモデルになっています。「町を支えている」という姿にとっても心を打たれましたね。

その後は、どのような経緯で現在の奈良市立都祁診療所へ赴任されたのでしょうか。

将来は地域で働きたいと思いつつも、現場に出るとどうしても経験中心になり、自分の世界が狭くなってしまうという懸念がありました。

そこで、本格的に地域へ出る前に、もう一度都会の研修病院でしっかりとトレーニングを積もうと考え、京都の洛和会音羽病院の総合診療科で3年間修業しました。

全国から熱意のある同僚が集まり、深夜まで症例検討をしながら働くような、非常に充実した日々でした。

その後、研修でお世話になった市立奈良病院へ戻り、スタッフとして臨床と教育に携わっていたのですが、数年後、都祁診療所が医師不在という状況となったため、私が管理者兼所長として赴任するようになりました。



東通村診療所のスタッフとともに



大和高原の地域医療を支える都祁診療所 | 学術性と教育を両立する挑戦

都祁診療所に赴任された当初は、どのような印象を持たれましたか。

都祁診療所は、病床や併設する老健などの施設を持たない一般的な山間部の診療所です。

かつて私が理想のモデルとしていた、地域医療センターのような診療所と比べて規模が小さく、赴任した当初は「ずいぶん静かな山間部の診療所に来たな」と思い、自身の情熱を持て余してしまうのではないかと感じたこともありました…

続きはQRコードからアクセスしてください → → →

